

2015年1月に観察されたニホンイシガメの行動記録

小賀野大一

290-0151 千葉県市原市瀬又962-40 千葉県野生生物研究会

Behavioral records of *Mauremys japonica* in January 2015.

By Daiichi Ogano

Chiba Prefectural Wildlife Research Society, 962-40, Semata, Ichihara, Chiba 290-0151, Japan.

2015年1月10日～12日の3連休は、西高東低の冬型の気圧配置となり日本海側は雪が降り続き、一方で千葉県を含む関東地方は晴天の日々となった。また、1月17日と1月27日の両日は冬型が緩み春らしい陽気となり気温も上昇した。筆者は、2011年からアライグマの補食の驚異から緊急避難させた千葉県富津市産のニホンイシガメ *Mauremys japonica* (以下イシガメ) を基に、繁殖を試み域外保全に取り組んできた(小賀野, 2012)。今回は、これらイシガメの回収個体とその繁殖個体を飼育する自宅の野外飼育場(市原市瀬又)において、冬期の活動を5日間に渡って観察したのでその行動について報告する。

1月10日午前8時20分、天候は快晴、気温2.8℃、水温1.6℃で、イシガメ幼体が氷の張った野外飼育場の上部で四肢を動かし氷に閉じ込められた背甲を脱出させようとしてもがいていた(図1)。1月11日午前8時25分、快晴、気温-0.9℃、水温2.1℃で、水底を歩行中のイシガメ雄(No.34)を確認した(図2)。飼育水槽(水面の縦53cm、横84cm)の水深は約16cmで、水温は上部が0.4℃、中部が1.4℃、下部が2.1℃で、イシガメが活動していた水底が最も温度は高かった。この時、水面に張っていた氷の厚さは3.8mmだった。



図1. 2015年1月10日の行動(気温2.8℃、水温1.6℃) 飼育水槽(上)と氷の張った水面で四肢を動かすイシガメ(下)



図2. 2015年1月11日の行動(気温-0.9℃、水温2.1℃) 氷の張った飼育水槽(上)とその水底を歩くイシガメ(下)

1月12日午前8時45分、快晴、気温3.7℃、水温0.8℃で、氷の裂け目から顔を出し、陸場の様子を伺っているイシガメ幼体(1月10日に確認した個体とは別個体)を確認し、その個体はその後、水中に潜り停止した(図3)。1週間後の1月17日、この日も快晴で、冬型は緩み9時55分には気温8.9℃、水温5.1℃まで上昇したが、イシガメの幼体4個体が陸場で日光浴をしているところを確認した(図4)。さらに10日後の1月27日、午前7時15分、雨、気温7.6℃、水温6.7℃で、すでにイシガメ雌3個体が上陸しており、雌への雄の追尾行動と正面に回り込んでの求愛行動が確認された(図5)。この日は、その後晴れて13時45分には、気温14.7℃、水温7.7℃まで上昇し、4月上旬の春らしい陽気に多くのイシガメが陸上に出て活動しているのが観察された。

矢部(2007)によると「ニホンイシガメは寒くても活動でき、水温が3℃でも谷川の水底でオスが歩き回っていた記録があり、これはカメの中の最低活動水温の記録である(2位は五大湖のカミツキガメで、5℃で動き回っていた記録有り).」とした。今回の観察記録は野外飼育場ではあるが、イシガメの幼体及び雄は水温約1℃～2℃の低温下でも活動する可能性があることも示された。一方、気温が7℃を越えるような比較的暖かい雨の日には、雄や幼体だけではなく雌個体も陸場に出て活動する可能性があることが示された。

今回温度測定をされていて気付いたことだが、水温を計測する際には水面近くと水底ではかなりの温度差があるため、個体が確認されたその地点を測定しないと正確さを欠くことがわかった。野外調査等で活動時の水温を記録する際には、忠実に確認した地点の温度を測定するように注意しなければならないことを感じた。

近年、イシガメの天敵として特定外来生物のアライグマが問題視されているが(例えば小菅・小林, 2015)、アライグマの餌不足が予想される冬期にイシガメが水辺で活動することで捕食される機会が増大しているのかもしれない。

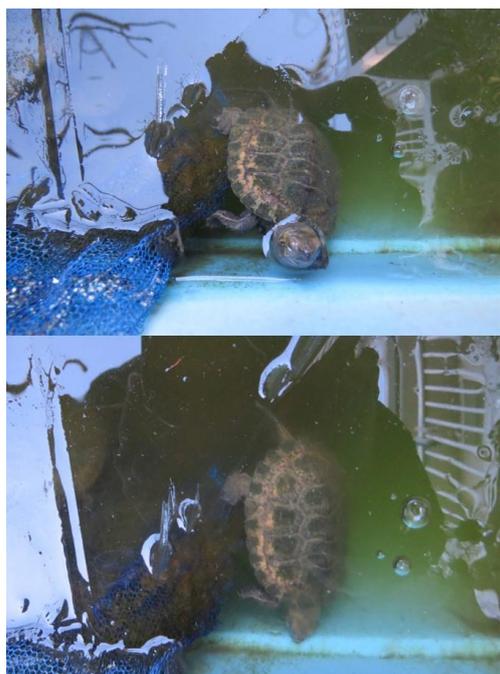


図3. 2015年1月12日の行動(気温3.7℃、水温0.8℃)
息継ぎをするイシガメ



図4. 2015年1月17日の行動(気温8.9℃、水温5.1℃)
陸上に出たイシガメ



図5. 2015年1月27日の行動(気温7.6℃, 水温6.7℃)
 上: 陸上で雌を追尾する雄, 中: 雌に求愛する雄, 下: 水場から陸上して日光浴をする2014年生まれのイシガメ幼体

引用文献

- 小菅康弘・小林頼太. 2015. アライグマによる淡水カメ類の危機. 爬虫両棲類学会報2015(2):167-173.
 小賀野大一. 2012. 房総半島におけるニホンイシガメの危機. 第14回日本カメ会議&ニホンイシガメシンポジウム講演要旨集:37-47.
 矢部隆. 2007. ニホンイシガメ. p107-128. 内山りゅう(編). 今, 絶滅の恐れがある水辺の生き物たち. 山と溪谷社, 東京.